自閉性障害児を対象としたダンス・セラピー的アプローチ—表現としての身体を感じとろうとする関わり方—

八　木　ありさ

1．目的

ダンス・セラピーは，ひとは一人一人が独自の方法で感じとったことを独自の方法で表現しているととらえ，身体を通じて新たな表現や関係を創造しようとする。他者とのコミュニケーションが成立しにくい人，特に，外界の情報を自己の知覚過程の中に組み込みにくい，あるいは自己の中で生じた事を，適切な信号に変換できない，といった基本的な問題を抱えている自閉性障害などの治療教育においてダンス・セラピーが果たす役割への期待は大きい。そこで本研究では，身体表現を通じて自閉性障害児に接近しようとするプロセスを観察することにより，ダンス・セラピーにおける表現と関係の変化とその及ぼす効果について検討する。

2．方法

⑴　セッションの概要

週１回，自由遊びを主とした約２時間のプレイ・セラピーの中で，「ダンス」として約30分間行った。参加者は分析対象となるM児（養護学校在席，９才，男児）を含む３才～９才の自閉性障害児（男児６名，女児２名），ダンス・リーダー（以下Ｌ），プレイ・セラピーのリーダー，M児の担当者（以下Ｖ：養護教員養成課程在席，21才，男性）を含む特殊教育を専攻する学生ボランティア（10名前後）であった。

Ｌは中心となって動きの流れを即興的に展開させる。学生ボランティアはＬの役割を補助しつつ随時担当の対象児と関わって行く。

⑵　検討資料の収集

全てのダンス・セッションを，全容を収録できるように設置した８㎜ビデオカメラを用いて録画した。ＶがM児の担当となって第１回目のセッションと，約１か月後の第４回目のセッションについて，Ｌが「表現としての身体を主体的に感じとろうとする関わり方」を展開させる契機とした場面である「一緒に歩く」及び「押し合う／引き合う／押す－引く」についてM児とＶの表現行動を抽出し，以下の①～⑦に示す観点で分類および評価をＬと養護教員がそれぞれに行った。次に各々の評定を照合し，異なる評定については合意に達するまで繰り返し協議を行った。

①表現の種類，②相互の距離，③体に表れた意識の方向性，④空間の共有，⑤思いどおりに生き生きと表現しているか，⑥表現の自発性に関する評定，⑦積極的働き掛けに関する評定。

3．結果と考察

毎回提出されるＶの活動報告によれば，Ｖは，M児が体を触られることを嫌がり，触られた箇所を手で払ったり苛々したりするという情報を事前に得ており，M児が近接する位置関係や身体接触に対して否定的反応を示すであろうと予測していた。VTR 観察においてもＶからの働き掛けは消極的であり，事後報告にも「体を触られることを極度に嫌がり，触られた場所を手で払うしぐさが何度もみられた。ダンスは今一つからだが動いていなかった。」と記述している。一方，VTR におけるM児の表出は比較的自発的，開放的なものである。手で払うしぐさは確かに出現するが，これは十分に楽しみ且つ解放されているときにも出現している。M児は常に先行して表出しようとしているにもかかわらず，事前の情報によりＶの中に形成されたM児の固定概念が，実際にはセッション開始当初から存在していたM児の表出を，感じ取れない方向で作用したのではないかと考えられる。

また，M児はグループの中の自分，あるいはグループの中でのＶと自分という関係を感じ取っているようであり，十分解放されているとき，この関係を楽しむことができているようである，M児の表出が拡大し解放される傾向を持つのは，ＶがM児の意識の方向性をとらえ，自発的表出として返すことができたときであり，M児の楽しみあるいは表出が消失するのはＶが依存的になり規制的働き掛けをするときである。

さらに，場面の持続時間について見ると，１回目には「歩く」で30秒弱，「押す－引く」で80秒であったのに対し，４回目では「歩く」が90秒，「押す－引く」は160秒に伸びている。セッション開始当初には個々の勝手で単発的な表出であったものが，Ｖの側の身体においてM児を感じとろうとし，これを自分の主体的表出に反映することができるようになるにつれ，一つ一つの表出が次の新しい表出を生み出す誘因となって，共同作業としての二人の表現が展開していったことが推察される。

4．まとめ

表現としての身体を主体的に感じとろうとする関わりを推進したダンス・セラピー・セッションの中で，身体表現による自発的なやりとりが注意深く繰り返されることによって，M児とＶの表現は拡大し，変容していった。また，このことに伴って相互の認知と関係が発展して行く萌芽も認められたと考えられる。

また，本研究におけるセッションでは，ダンス・セラピスト，ボランティア学生，対象児の３つの立場が存在し，これらの間に生じる相互関係は複雑な構造を持つ。これは親，友達，社会との関係の重層性ともとらえることができる。M児に見られた表現と認知の変容は，M児が身体を通じて彼を取り巻く社会と様々な関係を結ぶことができることを示唆しているようなものである。

＊本発表は平成８年度科学研究費の助成を受けて行われた研究（課題番号08780113）の一部である。